

## 実践報告

## 札幌市立常盤小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」を活用した授業の研究

- 豊かな体験を通して、自然や人との関わりを深め、生命を尊重する心と美しいものに感動する心を育成する。好ましい人間関係の確立や生命尊重の心を育成し、考える場や体験・実践の場を通じて人権意識の深化を図る。

### (2) 実践の内容

【実践①】総合的な学習の時間の実践について

#### ○ ねらい

- ・ 体験活動を通じてアイヌ文化に親しむ。
- ・ アイヌ民族の方との交流を通し、人権意識の確立を図る。

#### ○ 学習内容

- ・ 文化財等の実物に触れたり歌や踊りを体験したりする活動を行うことでアイヌ文化に親しみ、アイヌ民族の昔の暮らしを実感した。
- ・ 訪問学習の事後にこれまで学習してきたアイヌ文化に関わる題材（アイヌ文様・アイヌ語など）を活用して発表交流の場を設定し、学習の深化・発展・定着を図った。
- ・ 「知ること」「理解すること」を大切にし、人権意識を高めることにつなげていった。



【実践②】社会科の実践について

#### ○ ねらい

- ・ 展示物や施設を見学し、アイヌ文化と歴史についての一層の理解を図る。

#### ○ 学習内容

- ・ 4年生の社会科と関連させてアイヌ文化や歴史をあらかじめ学習してから訪問した。アイヌの理解の深化を図るため、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示物や施設を見学し、遊びなどの体験プログラムを活用した学習を行った。
- ・ 昔の家や狩りに使っていた道具、アイヌ民族が昔から着ている服「アツシ」等、教科書に写真で載っているものをアイヌ民族の方から説明してもらい、自分の目で見ながら学んでいた。



### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

本など資料でしか見ることのなかったアイヌ文化に触れたり、人と実際に交流したりすることで、より親しみを感じ、現実感をもってアイヌ民族のことを語れる子どもたちになってほしいと考えた。サッポロピリカコタンを利用し、アイヌ民族が実際に使っていた道具や服など実物を見ることができた。写真や資料で見るとよりも、直に見ることで、より実感的な体験をすることができたと感じる。



今回、アイヌ民族の方に実際にお話を聞いたり、一緒に遊ぶなどの活動をしたことで、身近に感じることができた。また、現在もアイヌ民族の方が身近で一緒に生活を営んでいることを理解し、人権に対する意識を高めることができたと考える。

#### ② 課題

アイヌ民族に対しての偏見をもつことのない意識を、より一層育てていきたい。学校として授業では学習しているが、授業以外にどのような取組ができるか考えていきたい。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

##### ・アイヌ民族の文化や歴史を理解する

アイヌ民族に対する差別に関わる問題から人権意識を高めるためには、その文化や歴史についての理解を深めていくことが大切であると考えます。4年生の子どもたちには、アイヌ民族に関する知識が少ないため、まずは、知ることが大切である。アイヌ民族の文化や生活、歴史について授業の資料だけではなく、今回のような実物に触れたり、体験したりすることが必要である。また、アイヌ民族に対し具体的にどのような差別があるのかを知ることが必要である。現状を知らなければ、人権に対する意識は生まれないと考える。

##### ・日常でアイヌ民族を感じる

普段の生活からアイヌ民族に関係する事柄に触れさせることが大切である。本校では掲示板に世界の挨拶を掲示している場面があった。その中に、英語や中国語、ロシア語などと共にアイヌ語の挨拶を掲示していた。このような取組を広げ、日常の中にアイヌ文化が感じられる環境を作っていかなければなかなか理解は進まない。アイヌ民族が特別ではなく、普通であるという感覚は子どもの時期から育てていかなくてはならないと考える。